※文字の大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、（写真 1）（表 1）などと文中に記載し、右ページに（写真 1）（表 1）などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
※いずれの場合も、必ずＡ３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

※事務局記入欄
No. D-94

【様式２】

部門名：
校内研修プログラム開発・実践部門

エントリー名：
京都市立西総合支援学校

活動名：

専門性の向上維持システム
～外部専門家と教員をつなぐ MWC～

解決すべき課題：

「専門的なノウハウ(自閉症支援)の習得・実践と継続的な伝承」

・様々な外部専門家によるアドバイスは年に数回しか受けられず，実際の指導場面で高まった専門性を発揮できるのは全教職員のうち３％程度→**実際に取り組む教員への日常的なサポート体制が必要**
・教員の個人的な取組であると，転出等があるとまた初めから取組を始めなければならない状況となる
→ノウハウの有用性を校内で拡散する必要性の高まり

目標・方針：

目標・専門的なノウハウの実践を継続して取り組め，発展・展開していける組織の構築と研修方法の確立。
・専門的なノウハウを校内により普及させ，継続的に実施できるようする。
方針・外部専門家より定期的にコンサルテーションを受け，その窓口及びパイプ役となるＭＷＣ(医療福祉コーディネーター)を配置し，自閉症支援の実践に対してフォローアップを行う

活動内容：

・PEP- 3 や TTAP 等によるフォーマルアセスメントの実施
・対象児のインフォーマルアセスメントの実施と，それを基にしたプラニングの提示
・実際の指導支援や取組に対する介入や助言(週に１回程度)
・専門家によるコンサルテーションのフォローアップ
・学校行事のスケジュール表案作成や校内特別教室等のトラジッションカード入れの作成
・構造化された指導の実践充実

活動の成果：

・年４回の自閉症専門家によるご教示(実際の授業の様子や児童生徒の様子を観察後，コンサルテーション)を受け，ＭＷＣによる週１回の実践介入を行うことで，対象児への支援等の留意点や次のステップへの展開について適切に学べた
・MWC と日常的に相談等ができることで，すぐに悩みを解消できる環境が整った（図１）
→教員が単発的ではなく継続的に取組を実施し，支援を行えるようになった

・３年間継続実施することで，MWC への支援依頼が年々増加した（表１）
・全体提示されたもの（スケジュール等）を活用する教員が増加した
→自閉症支援に関する専門的ノウハウの必要性と，それを身に付けたいと考える教員の増加

アピールポイント（アイディアや工夫）：

・自閉症支援における外部専門家と教員の窓口・パイプ役となるＭＷＣを校内に配置したことで，高まった専門性を実際の指導場面で発揮できる教員を格段に増やすことができた(毎年 10 名以上)。
・上記のような体制で３年間専門性向上の取組を継続したことで，専門性が高まった教員が 30～40 名程度まで増えた。
・教員や MWC の異動による転出があっても，高まった専門性が学校全体の専門性として継続できるようになると期待できる。

＜写真、図表添付欄＞

図１　ＭＷＣの介入方法

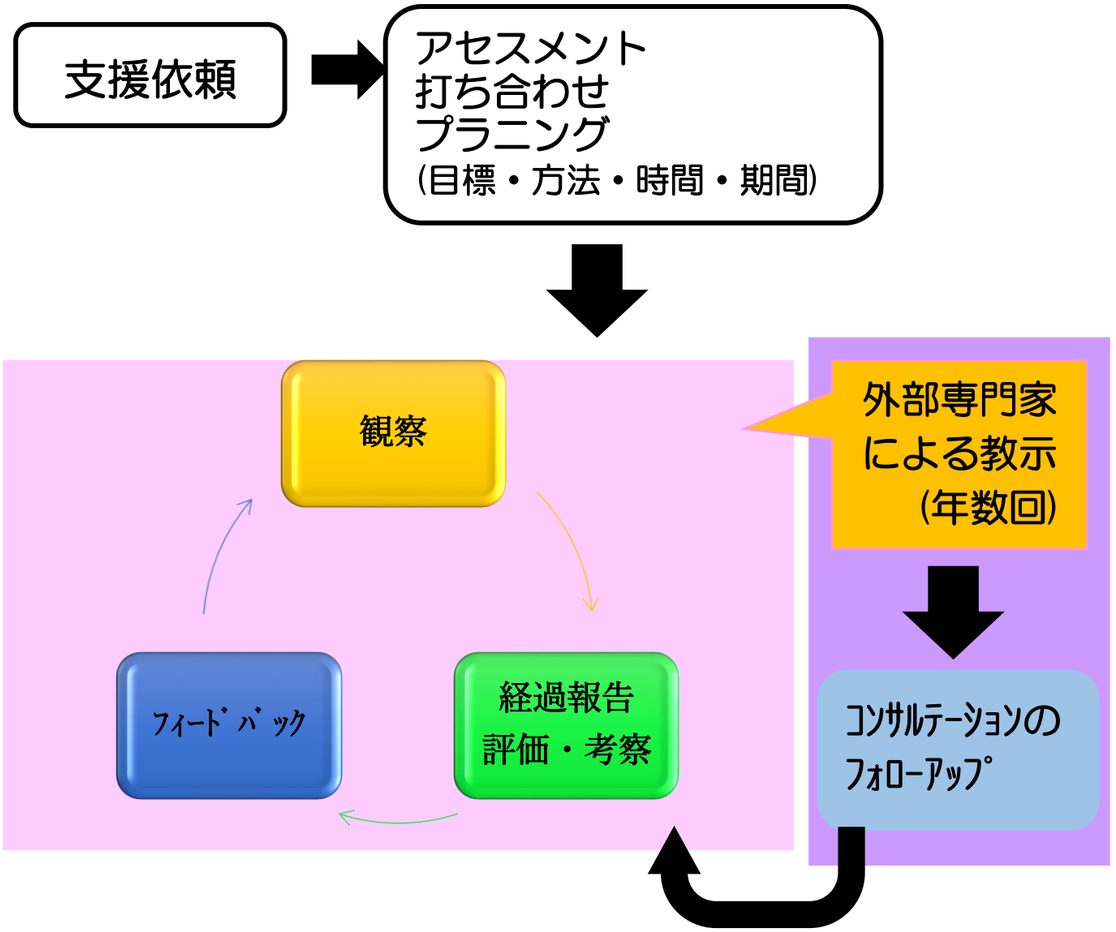

表１　ＭＷＣへの支援依頼の推移

	小学部	中学部	高等部	合計
2017 年度	５	５	３	１３
2018 年度	９	６	１０	２５
2019 年度	１１	５	７	２３

※２０１９年に関しては，９月３０日現在の数字